

みなみあそ ダイアリー

新たなステージへ

村内の保育園、小学校、中学校、専門学校で入学式が行われました。



■各保育園の新入園児数

- ・はくすい保育園 4人
- ・くぎの保育園 8人
- ・ちよつよう保育園 17人

ちよつよう保育園では新入園児を含む全園児が出席し、園児たちは1人ずつ名前を呼ばれて元気よく返事をしていました。



息の合った「はじまりのことば」



元気いっぱい返事ができました



緊張した表情で返事をしました



先生の話に真剣に耳を傾けていました



背筋を正して校長の話聞く新入生



新入生代表挨拶を述べる藤原日望子さん

■南阿蘇中学校の入学人数 84人

新入生はクラスごとに入場し、堂々と点呼を行いました。

新入生代表挨拶では藤原日望子さんが「中学校3年間、仲間とともにたくさん思い出をつくりたいです」と目標を述べられました。3小学校から集まった生徒たちの交流がさらに深まる事が期待されます。

■アイデアITカレッジ阿蘇(ICA)の入学人数

- ・ITソリューション学科 23人
- ・ITビジネス学科 5人
- ・IT国際学科 8人

今年度は新たに本科進学を目指す「IT国際学科」が誕生。国内外から集まった計36人が、村で新たな一歩を踏み出しました。

新入生代表挨拶では、ネパール出身のカタワル・マニサさんが「阿蘇での生活を通して、技術だけでなく日本の文化や人との繋がりを大切にしたいです」との想いを語られました。また、西田愛華さんは「日々の授業や経験を通じ、自分がどのような形で社会に貢献したいのか、進路を見つけていきます」と抱負を述べられました。



笑顔を見せる新入学生

地域で支える更生保護の輪

「国際更生保護ボランティアの日」



保健センターで「国際更生保護ボランティアの日」記念イベントが開催されました。これは村と高森町で構成する阿蘇地区保護司会南部分会の主催で、昨年続く2回目の開催です。国際的な記念日に合わせ、地域連携の強化と活動への理解を促進することを目的にした先駆的な取り組みで、全国的にも類を見ない活動として注目されています。

式典では、熊本保護観察所の富田義博所長が「更生保護のあたりまえ化に向けて」と題した講演の中で、誰もが地域で安心して暮らせる社会づくりの重要性を説かれました。また、渡邊吉保保護司（中松二）が45年間にわたる更生保護活動の歩みを回顧。参加者は熱心に耳を傾け、地域で立ち直りを支える使命を新たにされました。

犯罪や非行のない明るい社会を築くため、多様なボランティアが手を取り合い、南阿蘇の地から力強い一歩を踏み出した一日となりました。



更生保護について確認を深めた参加者

保育園に「ぼすくま絵本」を贈呈



村内3保育園に日本郵便から「ぼすくま絵本」が贈呈されました。この絵本は日本郵便のオリジナルキャラクター「ぼすくま」とその仲間たちが、手紙や荷物を通じて、人と人との繋がり・思いやり・ありがとうの心を伝えることを目的として作成されたものです。

今回の贈呈は、河陽郵便局の後藤剛局長が企画して実現したもので、後藤局長と白水郵便局の辰野謙二局長から各園に贈呈されました。

贈られた絵本は『パン屋さんのお届け物』と『ぼすくまのペンフレンド』の2作品。ちょうよう保育園の贈呈式では後藤局長と「ぼすくま」から園児たちに絵本が手渡され、園児たちは笑顔で新しい絵本を開き、楽しそうに見入っていました。



後藤局長と「ぼすくま」、絵本を受け取ったちょうよう保育園の園児

いつまでもお元気に百歳の表彰とお祝い



坂田美代子さん（第9駐在）が百歳を迎えられ、太田村長から表彰状とお祝いの品が贈呈されました。

坂田さんは大正15年4月生まれで久石のご出身です。長年酒屋を営まれ、配達の際にはバイクに乗って自ら商品を届けるなど、地域の皆さんに親しまれてきました。また、3人のお子さんを育て、家庭と仕事を両立しながら人生を歩んでこられました。現在は陽ノ丘荘に入所され、穏やかな日々を過ごされています。

坂田さんは当日、ご家族から贈られた百歳の桃色の大黒頭巾とちゃんちゃんこを身にまとい、ご家族や関係者に囲まれ歓談を楽しまれました。



ご家族や村長に囲まれる坂田美代子さん（前列左から2番目）

折り紙かぶとのプレゼント



民生委員の皆さんから村内小中学生一人一人に向けて、折り紙かぶとが贈られました。この取り組みは今回で3回目となり、端午の節句に兜を飾る文化をもとに、5月5日のこどもの日に合わせて子どもたちの健やかな成長を願って作成されています。

南阿蘇西小学校では、民生委員の皆さんから各学年の代表児童に4種類の折り紙をした折り紙が手渡されました。折り紙を手にした2年生の緒方優姫さんは「きれいな色と形のかぶとを貰えて嬉しい」と話されました。



民生委員と折り紙を受け取った南阿蘇西小学校の2年生

卓球で全国大会と九州大会に出場



全農杯2026年全日本卓球選手権熊本県予選兼全九州卓球選手権大会熊本県予選のバンビ男子シングルの部で、草野桜佑さん(久木野小2年・南阿蘇TTC所属)が3位入賞を果たしました。草野さんは7月に神戸での全国大会と、長崎での九州大会に出場されます。



賞状と副賞を手に見せる草野さん

草野さんは競技を始めて2年ほど、現在はクラブで週に3回ほど汗を流しています。今大会は全国大会出場を目標に掲げられ、見事に達成されました。草野さんは「初めて全国に行けるのでも嬉しい。全国大会では、予選突破したい。たくさん勝てるように、これからも練習を頑張りたい」と話されました。

GO!GO!ラリー in熊本2026開催



俳優の唐沢寿明さんが発起人となり、クラシックカーで震災地域を訪れ、地域を盛り上げるチャリティイベント「GO!GO!ラリー in熊本2026」が開催されました。

イベントは2日間にわたって行われ、初日は熊本市内を出発し、県南地域を巡ったのち、2020年に水害の被害を受けた人吉市で終了。2日目は震災で被害の大きかった益城町や西原村、本村などの県北地域を巡り、熊本市でゴールする走行ルートで実施され、1928年から1974年までに製



1928年に製造された車両

造されたオリジナル車両、約120台が参加しました。

村内では、震災ミュージアムKIOKUと数鹿流ヶ滝展望所の2カ所がスタンプ地点となっており、阿蘇ファームランドでは決められた区間を設定された時間に近い時間で走行する、PC競技が行われました。

震災ミュージアムKIOKUの展示室1にて、太田村長が唐沢さんと妻の山口智子さんに震災の実情を語る展



個性豊かな車両が集まり、訪れた人も興味深く見ていました



自然を満喫する参加者



(左から)唐沢寿明さん・太田村長・山口智子さん

示物を見ながら震災の被害状況や現在までの復興への歩みについて説明すると、お二人は「引き続き復興へのエールを届けたい」との思いを寄せられました。

それぞれの会場には、イベントを観覧しようと村内外から多くの人が訪れ、走行する車両の写真を撮ったり、参加者に手を振ったりして楽しんでいました。